

グループ多摩虫会員総会 2019年3月23日(土) 午後1:30~2:50
於: 武蔵野公会堂2F 第1・第2合同会議室

【年次総会】

『総会の進行』

- * 司会: 田中和夫、議長: 斎藤秀昭(議場で決定)、書記: 宮内隆夫
- * 「総会は正会員の過半数の出席で成立する。委任状も出席とみなす。総会の議案は幹事会で作成し、出席者の過半数の賛成で決議する。」(会則、第28条)
- * 会員総数181名、総会出席者数53名、委任状受理者数71名、合計124名となり、過半数91名を上回り総会は成立。(出席者は開会時の人数です)

『議事』 : 1) 2018年度活動報告 (一部は事前に報告済)

会計報告、監査報告

2) 審議事項

第1号議案 会則の一部変更の件

第2号議案 次期幹事の起案

第3号議案 2019年度活動計画案(一括審議)

活動方針、行事計画、育成企画活動計画、

会誌発行計画、IT関係計画、会計予算

3) 表彰 グループ多摩虫顕彰、青少年奨励賞、皆勤賞

4) 新入会員紹介

【記念講演】

朝日 純一氏 「サハリンから見た日本産高山蝶」 午後3:00~4:00

【懇親会】

総会終了後、下記にて懇親会を行います。

1. 日時 : 平成30年3月23日(土) 午後4:30~6:30
2. 場所 : さかなや道場(旧はなの舞)(武蔵野市吉祥寺本町1-24-7 吉祥寺光ビル3F)
3. 会費 : 一人@5,000円、(20歳未満の方は@2,000円) Tel. 0422-28-0651

【今後の例会予定】 午後6:30~8:30、

4月16日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

講演: 早坂弘次氏「中欧(クロアチア・スロベニア)の旅」、

多々良明夫氏「肉眼で見えない虫ーフシダニの話ー」

【連絡事項】

1. 「2019年度の会費」

3月より新年度となりますので、会費を未納の方は、至急納入して下さい。お願い致します。

一般会員: 4,000円、高校生以下: 1,000円

【送金先】 ゆうちょ振替口座: 00180-0-67713 グループ多摩虫



2. 【多摩虫 72号発行】

会誌72号は予定通り発行の運びになり、ヤマトDM便で発送致しました。届かない場合は連絡ください。投稿頂いた方へは規程とおり2冊をお送りしております。ご協力ありがとうございました。(編集：羽鳥信義)

【2月例会 概要】

2月19日は2月例会でした。武蔵野公会堂に43名が集まりました。講演二題、この日の出席者はかなり集中して聴き入ったようにお見受けしました。

1, 小林真一郎氏「ムシヤの世界, ムシヤの見る世界」

と題して展開されたのは、「戦後の時代と虫屋の変遷史」とも言うべきスペクタクルでした。

1945年以降、25年間という四半世紀でパラダイム転換があり、
1945～1970年 ムシの沢山いた教育・科学振興の時代、アマチュアと学者が近接していた時期。
京浜昆虫同好会も全盛。昆虫採集を楽しんでいた時代。

1971～1995年 頂点を極めた後、時代と環境の変化と目的拡散の中で、世代交代の時期。

1996～2020年 経済成長後の目的喪失感の中で、自然破壊と保護思想の台頭。

2021年以降の未来像も語られました。

小林氏は珍品を採りたくて始めた蝶蒐集だそうですが、蝶の命をいただくのが次第に忍びなくなり、現在は採集はしていないそうです。今回の虫屋的視点による文明論は実に興味深く、メンバーが多くなると架空の組織を想定しヒエラルキーやら派閥が生じることとなり、京浜昆虫同好会が1970年頃に破綻したのもそれが要因であること、1992年に発足した蝶類学会の分裂の真相のきわどい所まで語られました。グループ多摩虫の規模(会員180名ほど)はそういう意味では適正だとのことでした。

2, 杉山裕美子氏「日本人と虫～古典<虫愛づる姫君>を中心に～」

「人は実あり 本地尋ねたるこそ 心ばへをかしけれ」

杉山さんは転勤族の父によって青春時代は各地を巡りましたが、理系大学志望だったのに、三重在住の高校時代に「堤中納言物語」の「蟲愛づる姫君」に出会って文系志望に転向、現在は茨城県の種苗会社にお勤めです。

始めに日本人と虫との密接な関わりに触れた後、「蟲愛づる姫君」のストーリーの解説、成立年代も作者も不詳であるこの古文を分かりやすく説明しながら、姫君による飼育、分類、応用、信念、調査の姿勢を、文学的批評を絡めて述べられ、「人間は本当の真実を追い求めることこそが大事なこと」というこの作品のコアな部分を引き立たせました。

この話の末尾には「二の巻にあるべし」とその後の展開を予感させる一文があるのですが、それはどこにも存在せず、それはもしや未来へ向けた虫への探求を期待する、作者の純粋な願いだったのかもしれないとまとめました。

「ちぎりあらば よきごくらくにゆきあはむ まつはれにくしむしのすがたはふくちのそのに」

今回の二題の講演はかなり濃密で、両講演が絡み合っている印象もありました。お二方には感謝いたします。その後は「さかなや道場」にて二次会がありました。